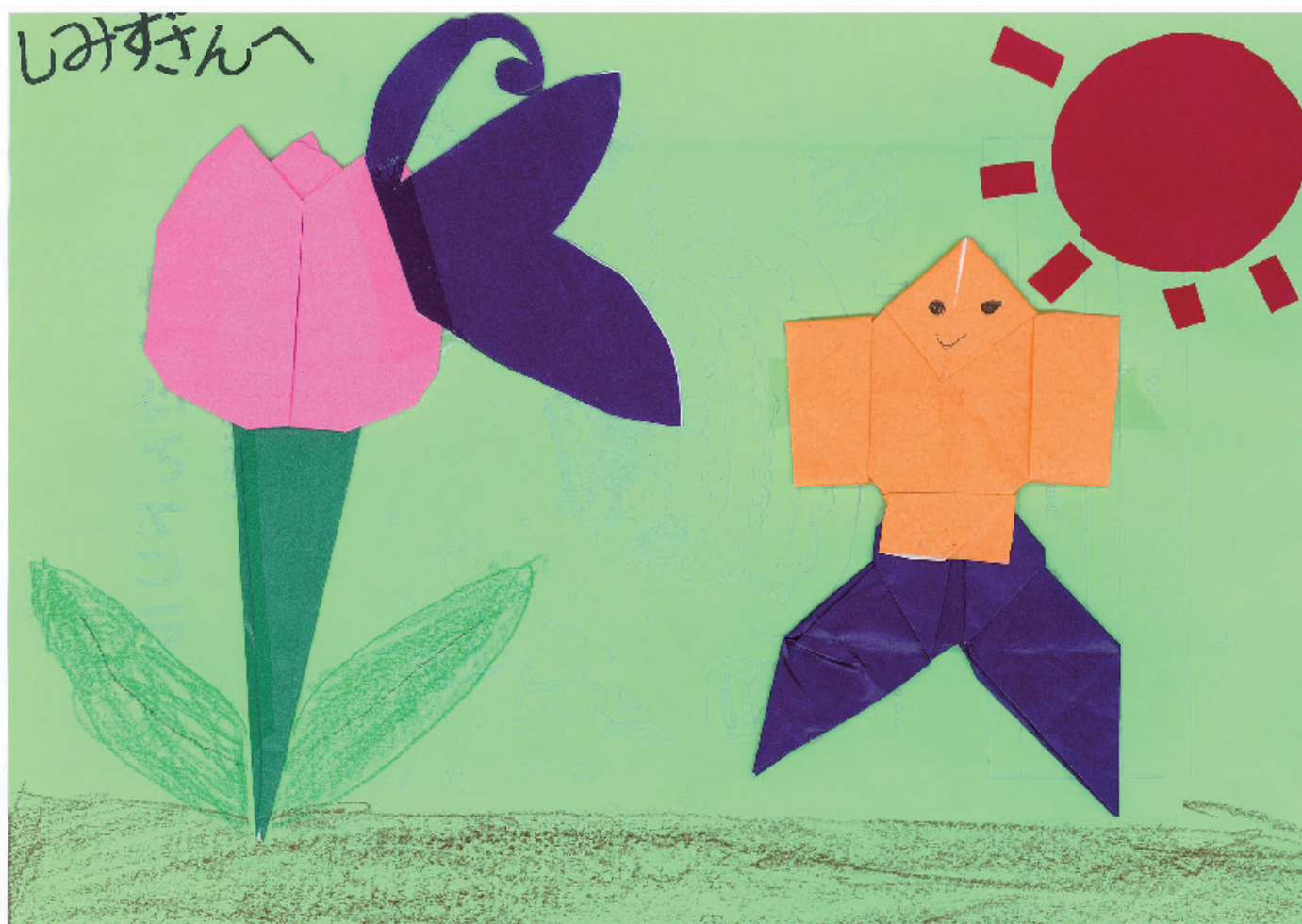
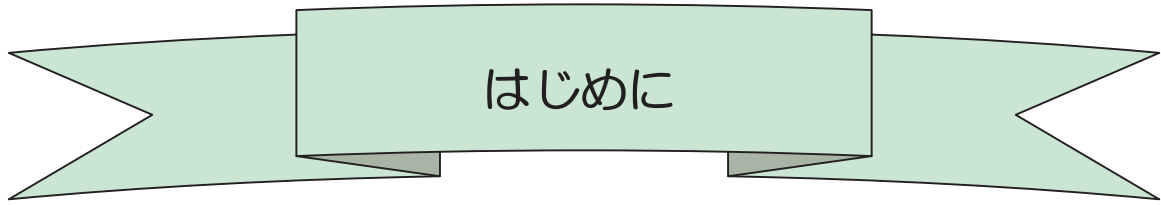


子どもたちへのメッセージ集 2012

～ 命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ ～





へいせい ねん がつ にち はんしん あわじだいしんさい
平成7年1月17日、阪神・淡路大震災があり、

おお かた な いえ うしな
多くの方が亡くなり、家を失いました。

だいさいがい けいけん かた いのち たいせつ
その大災害を経験された方たちから、命の大切さや

しんさい まな こ つた
震災から学んだことを、子どもたちに伝えるために

よ の
寄せられたメッセージを載せています。

よ
みなさん、ぜひ読んでみてください。

ひょうし さくひん ひがしにほんだいしんさい ひさいち しえん はけん こうべししょくいん
表紙の作品は、東日本大震災の被災地を支援するために派遣された神戸市職員

しみずとしや ページ けいさい じさん お がみ ひさいち おとこ
清水利也さん（メッセージは33・34頁に掲載）が持参した折り紙で、被災地の男の

こ おんな こ きょうだい つく はけんさいご ひ てわた
子と女の子の兄弟が作ったものです。派遣最後の日に手渡してくれました。

子どもたちへのメッセージ集 2012
～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

も く じ

- ☒ 子どもたちへのメッセージ (21通)
 - 震災当時の様子……………1 ページ
 - たすけあい……………9 ページ
 - 体験から学んだこと……………15 ページ
 - 感謝の気持ち……………24 ページ
 - 子どもたちへのエール……………29 ページ
- ※ 内容によってテーマ分類しています。
- ※ 経験や想いを尊重してお伝えるため、誤字・脱字を除き、メッセージを原文どおり掲載しています。
- ☒ 東日本大震災派遣職員からのメッセージ (3通) …… 31 ページ
- ☒ メ モ …………… 38 ページ
- ☒ 子どもたちからの感想文 (6通) …………… 39 ページ
- ☒ しあわせ運べるように…………… 42 ページ
- ☒ さいごに…………… 43 ページ

震災当時の様子

子どもたちへ

17年前 神戸を襲った大地震は 本当によくの大切な命や思い出をうばっていきました。お母さんはあの時のゴーンという音と体をつきあげられるような揺れを一生忘れることのない恐怖として体に刻みつけられています。

お母さんが住んでいた部屋も ばあばの住んでいた部屋も 1階が崩れ そこでも大切な命が亡くなりました。お母さんの住んでいたマンションは1階が全て崩れ、そこで多くの方が亡くなったということがわかったのは 震災から数日が過ぎ、その場にたむけられた花束の数からわかったことでした。

「自分の下で人が亡くなった」という罪悪感はずっと消えず このことを話せたのも 何年もたってからでした。

ばあばの家の並びでは 4才の女の子が亡くなりました。埋まっても明るい声でお話しを続けていたのですが、女の子の声が聞こえなくなり「話しをしなくなって30分たちます」というおばあちゃんの叫びに 皆、我に返り彼女の救助にあたりました。

お父さんの胸に抱かれ守られていた小さな命でしたが 助け出された時には息はありませんでした。たくさんお話しをしたことで、おがくずをのみ気道がふさがったのでしょうか、人工呼吸をしてもバフーンという音しかせず、脈もその時しかうちませんでした。病院へ運ぶ間も人工呼吸、心臓マッサージをしましたが、幼い命は戻りませんでした。

お母さんは辛くて辛くて多くの死に耐えられず 次にこんな地震が来たら死んでもええと思っていました。

でもあなた達を生み、守るべき人の存在はお母さんからそんな気持ちを一扫しました。

どうか^{すこ}健^{ひと}やかに^{いた}人の^{かん}傷^{ひと}みを感じ^{せいちょう}とれる^{くだ}人に^{こうべ}成長^いして^い下さい。神戸には^い生きて^いたくても^{いのち}生き^{おも}れな^{かか}かった^{とち}命^{こうべ}が^いたく^いさん^いあり^います。そんな^{おも}思い^{かか}を抱^{とち}えた^{こうべ}土地、神戸
の^{あか}明^{みらい}る^{かあ}い^{とも}未^{ささ}来^{ささ}をお^{ささ}母^{ささ}さん^{ささ}と^{ささ}共^{ささ}に^{ささ}支^{ささ}え^{ささ}て^{ささ}い^{ささ}こう^{ささ}ね。

平成24年1月12日

兼子 美佐



震災当時の様子

● 子どもたちへ



「地球がばくはつする！！」 大きな大きなじしんは

ドーン！ゴー…という大きな音でした。

何がおこったのかわかりませんが、体は動きません。

まっくらで見えないし、気がついた時は重たいタンスにかこまれていました。

ようやく家族の所へ行くと、「生きてるかー！！」 外から近所の友達が見に

来てくれていました。友達は「ウチはだいじょうぶ！」と言って帰りましたが、

その子の家のかべは全部たおれていました。

家の中を歩く時、でんきゅうやおさらなど、われたものがたくさんで、スリッ

パをさがしたけど、見つからず、足がいたかった。お父さんはおでこから少し血

が出ていました。外でかっていた犬もパニックになり、土にかくれようとした

のか、穴をほってつめから血が出ていました。前の道もガス管もわれて何日も

ガスくさく、水も食べ物もありませんでした。

みんなせいっぱいで、遠くまで重い水をはこんでも、おなかがすいてもいつ

もの公園が仮設住宅で遊べなくても、誰も文句は言わず、助け合いました。

「生きている」それだけでどれだけ幸せだったか。みんなも絶対に命を大切に

にしてください。

そして、つらい時に助け合う友達をたくさんつくってください。

平成23年12月2日

中田 加奈子

● 子どもたちへ

よる ひとり ね した じめん おと ちか
 夜、一人で寝ていると、ふとんの下…？地面…から、ゴォ～と音が近づいてき
 たかとおもったらふとん いっしょに は あが きょうふ う はじ
 たかと思ったら布団と一緒に跳ね上がった。恐怖で「ぎゃあー」と、生まれて初め
 てくらいの大きな声だったと思います。真っ暗の中で叫んだ、誰が来たの？
 ひと た た おも おり いえ ゆ
 人ではない、立てない、立とうと思っても無理、はいながら、家が揺れてる、
 すごく動いてる、怪獣が家を動かそうとしているように、2階の人の家具など
 が、たお 倒れる、すごい音 おと ドン、ガチャン、バン ま くら なか おと きょうふ さむ
 い、外に出たい、出れない、ドアが開かない、「助けて」とドアを押し続けて
 やっと開いた、外にも、あか 明りが無い、ふとん に ひとたち み くるま
 で逃げた、しんごう 信号も消えてる、でんちゅう 電柱の明りもなく暗闇だった、それから何日も水
 がない、た もの 食べ物がない日が続きました。コンビニへ行っても、何も売り切れで
 ない、かね 金があっても、か もの 買う物がなかった… お風呂も5日たっても入れない、
 て あら 手も洗えない、みず で トイレの水が出ない、かわ みず く い 川に水を汲みに行った。やっとテレビが写
 った、こうべ も 神戸が燃えてる…うそ、うそ、まち 街がなくなってる、なみだ と 涙が止まらなかった。
 ともたち おとこ こ あし なが じかん ほさ くず たても の なか ひざ した
 友達の男の子が足を長い時間、挟まれていた、崩れた建物の中で、膝から下の
 りょうあし せつだん 両足を切断した。もう歩けなくなった。かれ な 彼は泣かなかった。ふつう たの はな
 普通に楽しく話す、
 わたし な かが わる おも あし ぶぶん
 私が泣いてはいけない。彼に悪いと思った。なくなってる足の部分が「かゆい」
 と、ふつう がんば 普通に頑張って話してくれる。「足を組もうと思ったなら足がなかった…」
 わら ともたち み かわれ こうたい つ い いちばんつら
 って笑う。友達みんなで彼を交代でおんぶしてトイレまで連れて行く。一番辛く
 かな かわれ げんき ゆうき かんが
 悲しい彼にいっぱい元気や勇気をもたらした。いっぱい考えることができました。
 つよ い 強く生きようと、ひと ため 人の為になることをしようと、みんな ボランティアへ行き
 ました。

平成23年12月2日

NAO

震災当時の様子

子どもたちへ

あの日の朝の事を、ママは一生忘れません。生まれて1か月半ほどのお姉ちゃんは毎日夜泣きがひどくて、その日も一晩中泣いていて、ママはずっとだっこをしていました。いつも寝ているパパがめずらしくだっこを代わってくれたその時、「ゴオーツ」というものすごい音がして、部屋のはしからはしに飛んでいくほどの、ものすごい揺れが続きました。まだ暗いはずの空が、なぜかパーッと明るくなったのを覚えています。

「神戸に地震は来ない」と信じきっていたママは、それが初め地震とわからず、何が起こったのか全くわかりませんでした。重いテレビが台から落ち、食器が割れる音や物が倒れる音の中、何度も余震が来て、ママはお姉ちゃんをだっこしてふとんに丸まって「この子の命が助かりますように」と祈っていました。

ママ達が住んでいた六甲のマンションは新しかったので大丈夫でしたが、周りの古い家や文化住宅は、二階が一階になるなどつぶれまくり、街の風景がすっかり変わってしまいました。その後何か月たっても、つぶれた家の前にはお花やかわいいぬいぐるみが供えられていて、駅まで歩くだけでいつも涙が出ました。

2日間マンションで過ごした後、御影、学園都市、仁川と親せきの家に移り、たくさんのお世話になりました。ママの長田の実家はつぶれてしまったけれど、おじいちゃん、おばあちゃん、ママのお姉さん、そしてワンちゃんが無事で、生きて会えて本当に嬉しかったです。

あの震災を通して「命が何より大切」だということ、「人と人とのつながり」、そして「人の優しさと強さ」を知りました。

震災当時の様子

かず いま ふつう しあわ まいにち あ まえ おも とつぜん あ す
和ちゃん、今の普通の幸せな毎日を当たり前と思わないでね。突然明日をう
ばわれてしまった、もっと生きたかった たくさんの人がいたことを知ってい
てね。あたり前の毎日や、あたり前のようにいてくれる家族、友達を、そして
なに じぶん いのち ひと いのち たいせつ
何より「自分の命」と「人の命」を大切にしてくれ。

2012年1月9日

山本 紀子



● 子どもたちへ

震災当時、私は岡山県に住んでいて、赤十字のボランティアとして神戸市に入らせていただきました。

当時地元に戻ってから神戸やボランティアについて周りの人にいろいろと聞かれてもほとんど話をすることができませんでした。どう言葉にしてもきちんと伝えられないような気がしましたし、実際に被災された方々と違って、少し見ただけの私が話してもいいのだろうかという思いが大きかったです。ですが昨年、家族で神戸市に転居が決まり、また東日本大震災という状況もあり、あらためて考えさせられました。

今回、このような機会をいただきましたので、自分がさせてもらった活動や、街の様子ではなく、そこで出会った神戸の方々の優しいお気持ちについていくつか書かせていただきたいと思います。

● 震災から1週間経った頃だったと思います。自衛隊の方々のおかげでしょうか？病院のスタッフの方々の中で1日に2人ずつ簡易風呂に入れるようになったという連絡がありました。その時、ご自身も被災者でありながらも働いて来られた看護師の方々が、まずボランティアの私達に順番を譲ろうとしてくださいました。

● 大変な状況であった病院で、ただ掃除や白湯を用意するくらいしかできなかった私にも、年輩の患者さんが優しく声をかけてくださり、いろんな話をして「また来てね」と言ってくださったこと。いろんな場面で申し訳なく思う位「ありがとう」と言っていたきました。

● 主に子供さんに向けたショーをさせていただき、寄らせていただいた保育園（幼稚園？）で、まだ食品など自由に手に入らない状況の中、何人も

いるボランティアにもお茶とお菓子を用意して気遣ってくださいました。

- 私達の活動を知った年輩のご夫婦が、わざわざ遠方まで買い物に行って、お礼だと言ってお料理を作ってくださいましたこと（この時は、活動で帰りが遅くなって約束の時間に伺えず、団体行動で動けない上に携帯電話も普及していない頃で連絡も取れず・・・夜遅くに謝罪に伺いましたが大きな悔いとして残っています。間にあった人もいた事が救いです）

- 混乱した状況の中でも帰宅後の私達一人一人に丁寧なお礼状を送ってくださった学校もありました。

避難所となっていた小学校で、子供達が賑やかに校庭の鉄棒などで遊んでいました。その様子は当時の私には子供ならではの頼もしさも感じましたが、内面にはいろいろなものを抱えていたのだらうと思いますし、私も同じ年頃の子供達を持つ今、当時の御両親や先生方のお気持ちを考えると複雑な思いです。

今年、神戸に越して初めての1月17日を迎えました。我家の子供達も学校で地震のことをたくさん学び、私にも毎日聞かせてくれました。また「しあわせ運べるように」の歌を習い、大切に歌っています。子供達の話を通じて、被災者でもある先生方の内面に残る悲しみの大きさも強く伝わってきました。私はずっと「当事者でもないのに何か言うべきではない」という気持ちを持っていましたが、これから子供達と共に学んでいき、自分に許される範囲で、次の世代の人達に何かを伝えていけたらと思っています。

（原文が長文のため、一部省略しています。）

2012年1月31日

M&Hの母

たすけあい

● 子どもたちへ

あなたが生まれてくる前、お父さんとお母さんは神奈川県かながわけんの川崎市かわさきしに住んでいました。その時ときはんしんあわじだいしんさい阪神淡路大震災おが起きました。

お父さんは仕事しごと、かなり忙いそがしかったけど土・日ど にちで神戸こうべのじいじのお家うちに行きました。

お父さんは22年間ねんかんこうべ神戸いで生きてきましたが震災しんさいのため全まったく昔むかしのおもかけがなくなってしまいました。

お父さんは、すっかりかわってしまった神戸こうべの景色けしきを見て涙なみだを流ながして泣ないてしまいました。

泣なくことは決してはずかしいことではありません。悲かなしかったりつらいことがあれば泣なけばいいのです。

それはふつうの人間にんげんの姿すがたなんですよ。

震災しんさいをきっかけとして お父さんたちは川崎かわさきから神戸こうべに帰かえってきました。

じいじとばあばのそばにいてあげるのおもがいいことだと思ったからです。

そして今年ことし2011年ねん、今度こんどは東日本大震災ひがしにほんだいしんさいが起おきました。とても大きな地震おおでした。

茨城いばらきじいじのおうちもこわれてしまい、すごいこわいおもいをしたおもと思います。

神戸こうべの地震じしんのときも 東北地方とうほくちほうの地震じしんのときも 日本にほんだけでなく、世界せかいの国くにの

人ひとたちが助けたすに来てくれました。日本にほんからも外国がいこくで起おこった災害さいがいのときは

助けたすに行いっています。

もう自分の国じぶんだけで何なにとかするおおという大きささいがいの災害はすでなく、恥だれかしがらずに誰

かの手てを借かりてでも国くにを治なおしていくひつようことが必要さいがいなひどい災害かくちが各地おで起おこるようになっいてしまったのです。

これまで生きてきた人間たちが地球上にある自然というものをつぶしてしま
 い、人間の便利なような地球にどんどん変えてしまったので、地球がおこっ
 ているのだとお父さんは思います。

いろんな友だちや世界の国の人たちと仲良くやっていくことも必要だけど、も
 っと大きく考えて これからは地球さんともずっと仲良くしていく方法を
 考えないといけませんね。

2011年12月4日

原田 良介



たすけあい

● 子どもたちへ

スイッチを押せば明かりが付き、蛇口をひねれば水が出てお湯も出る…

それが あたり前だと思っていた事が あの地震の日まで どれほどしあわせな事だとは思いませんでした。

『ふつうの生活』『ふつうのしあわせ』『笑顔でいられる事』がどんなに素敵な事かも 考えた事はありませんでした。

すごく怖い思い、悲しい思い、嫌な思い…いろいろな事があったけど それ以上に、たくさんの人に出会い、お手伝いをしているつもりが たくさんの元気をもらいました。

人は一人では生きていけません。

『ふつうの生活』『ふつうのしあわせ』をするために、あなたができる事はたくさんあると思います。

自分の事ばかりではなく、少しでもまわりの人を思いやる心をもった人になってほしいと思います。

あなたが笑顔でいてくれるだけでも、ママやパパはしあわせです。あなたが笑顔でいられるのは、たくさんのおかげだと思える人になってほしいです。

● 子どもたちへ

あなたは、好き嫌いをせずに、何でも食べていますか？

物を大切にしていますか？ お友達や家族を大切に愛せていますか。

そして自分を大切にしていますか？

震災にあった人達は、お腹がすいても食べる物もない、着る服もない、そんな中で、頑張って生きてきています。

突然 命を失った人達が沢山います。大切な人達（友達や家族）が側にいてあたりまえで、傷つける言葉を言ってしまうたり、暴力をふるってみたり、明日あやまればいい。明日何かをすればいいと思っても、明日は必ず来るとは限りません。毎日1日1日を大切に、そして、人は1人では生きて行けません。助け合って生きて行けるのです。

私が震災で感じた事、命の大切さ、物の大切さ、人の優しさ、温かさ、震災で学んだ事は沢山あります。あたり前があたり前でなく、すべての事に感謝が出来て、普通に生活出来る幸せを…。

今のあなた達には、想像も出来ない事かもしれません。でも、もし自分が、こんな辛く悲しく、苦しい状況になったらと考えてみて下さい。

そうすれば、人にも物にも優しく、そして、命の大切さ、生きている素晴らしさを感じる事が出来るかもしれません。人や物や自分を傷つけてしまっている子供達へ、もう一度震災の事を聞いて、見つめ直して見て下さい。

23年1月17日

翔達の母

たすけあい

● 子どもたちへ

もうすぐ17年がたとうとしています。あの日あの一瞬でいろんなものを失いました。

あのとき、誰もが絶望の中にいました。生きていくのに必死でした。3月11日に起きた東日本大震災では本当に多くのかけがえのない命が消えていきました。阪神大震災を経験した人は誰も胸がしめつけられる出来事だったと思います。場所や形が大きくちがえど、そのときかんじた思い、苦しみや悲しみは、きっと共通するものがあつたはず。

いっぱい泣いていっぱい苦しんで悲しんで、でもその先には必ず希望があります。

17年前の私たちがそうであったように。この先どこかでまた地震があつて大変なことになつたとしても誰かがまた苦しい思いをしてもきっとさしのべる手があるでしょう。私たちは全然知らない人を勇気づけることができます。私たちにはいろんな力があるのです。けっして1人で生きているわけではないのです。支えられ、支えながら誰も前を向いて生きているのです。

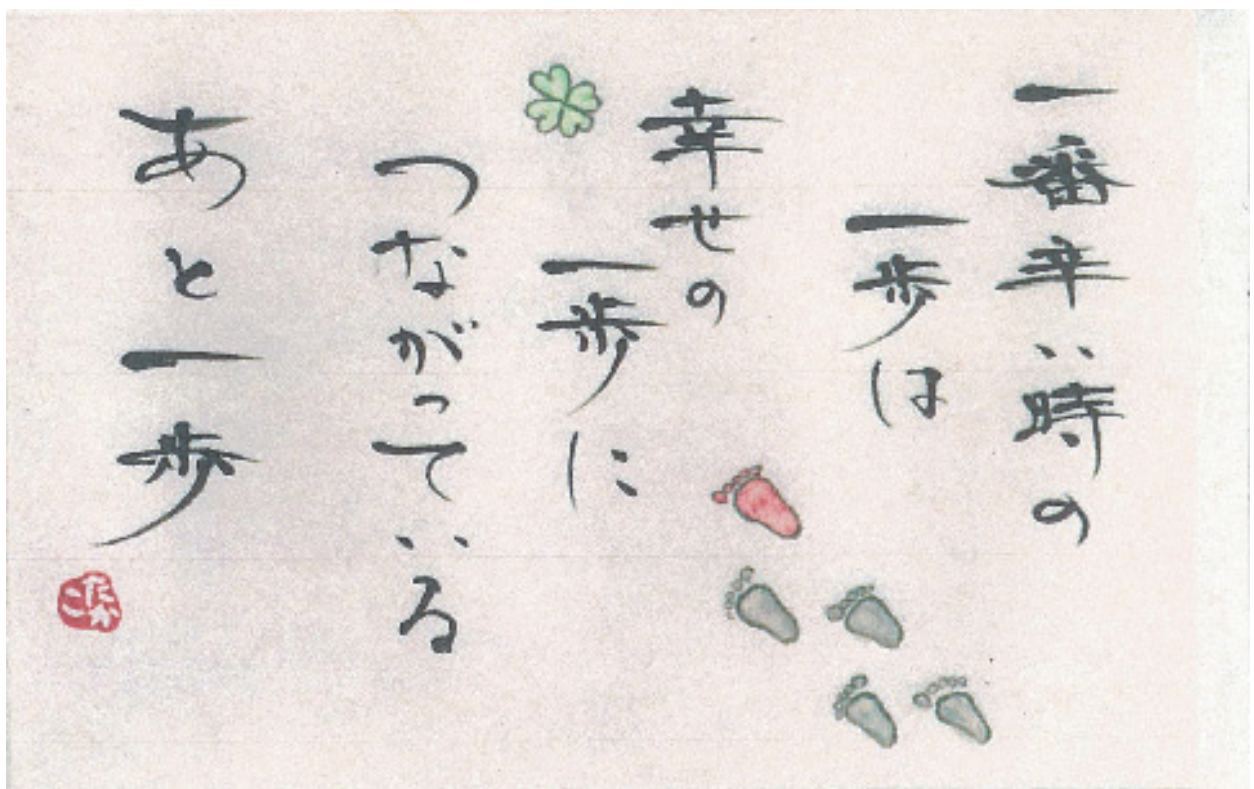
地震という大きな事がらがなくとも常に私たちは、支えあつています。その1つ1つは家族だと思ひます。誰かが熱を出したりけがをしたり動けなくなつたら、ちゃんと支えてくれる手があるはずです。毎日生きていく今があるのは家族に支えられているからです。普段実感することはないかもしれませんが、私たちはいろんな手をつなぎながら生きているのです。

これからの人生あなたたちには、うれしいことやつらいことやいろんなことがあります。

まわりを^み見て^{くだ}下さい。うれしいときは一緒に^{いっしょ}喜^{よろこ}んでくれるでしょう。つらいときは一緒に泣いてくれるでしょう。人はそうやってみな^い生きているのです。それに^{なに}何よりあなたが1日^{いちにち}無^ぶ事^じにおやすみなさいと眠^{ねむ}りにつくこと、この世^よに生^うまれてきたこと、それだけで、母親^{はは}の私^{わたし}を支^さえて^させてくれているのです。

23年11月30日

平川



体験から学んだこと

● 子どもたちへ

「がんばれ！」

2011年3月11日、あの東日本大震災が起きました。阪神・淡路大震災では母を失い、自分も被災した私は、メディアを通して見るあまりの惨状に心を痛め、この2つの大きな震災、阪神大震災以降の自分の16年間、そして「がんばれ」という言葉について考える時間をすごしていました。東日本大震災以降、私は何度か、

「被災された方々に“がんばれ！”という言葉かけるのは、よくない事ですか？」

という質問を受けました。私は、一概に「がんばれ」は良いか、悪いかは言えないと思いますし、「がんばれ」という言葉自体に罪はなく、それ自体そのたった4文字に計り知れない思い、愛情、友情、希望等が込められる事も多くあり、素晴らしい言葉だと思います。

心を込めて言葉を発し、自分の思いの全てが「言霊」として宿った「がんばれ」を口にする事ができれば良いなと思いますし、「がんばれ」以外にも何かその時の自分の気持ちに沿った言葉を持つ事ができればもっともっと素敵だと思います。

そして、思い出す「がんばれ」は私にもあります。16年前、阪神・淡路大震災で母を失い、数週間経って初めて会社に出社した日、友人と廊下ですれ違いかけた時、彼は私をみとめ困った表情を浮かべました。それは、私にどんな言葉をかけるべきか戸惑っている表情でした。私も、私の側からどう声をかけたらよいのかもわからない。お互い無言のまますれ違いかけた瞬間、

かれ こえ
彼は大きな声で、

「がんばれよ！」

ふ しほ ことば はな もじ かれ しんぱい ゆうじょう
と振り絞るように言葉を放ちました。そのたった5文字には、彼の心配、友情、
いろいろ おも かん こと しょくば もど べつ
色々な思いが詰まっているのを感じとる事ができました。職場に戻るとまた別
ゆうじん せき むごん かし さ だ さ い かれ お
の友人が席にやってきて、無言でお菓子を差し出し去って行きました。彼が置いて
いったお菓子は、驚いた事に封が開いた食べかけのお菓子でした。でも、彼
ひさ しゅっしゃ わたし げんき わたし み なに
は久しぶりに入社した私、元気がない私を見て、何かせずにはおれなかつ
たのでしょう。たとえそれが、食べかけのお菓子だったにしても。おどろ
おどろ
ものの、私 は彼の気持ちを嬉しく思いました。

それぞれ「がんばれ」、さまざま おお ひと ちから あた
「がんばれ」、様々な「がんばれ」、きっと多くの人に力を与えて
こと ほう おお おも ほ つよ ねが
いる事の方が多いのではないかと思います。また、そうあって欲しいと強く願
います。

2011年12月12日

小河 昌江

体験から学んだこと

● 子どもたちへ

「あの日」から17年 ずい分長い年月だったような気がします。又一方
まだ17年しか経っていないのか、とも。1月17日を迎える度にこんな複雑
な思いをしてきました。昨年3月11日に起きた東日本大震災で改めて、命
のはかなさ、命の尊さを思い知らされました。
人の悲しみ、苦しみ、悔しさ、どうにも出来ない自然災害への 憤り。何度く
り返すのでしょうか。

阪神淡路大震災の起きた数日後、ある新聞の死亡欄で中学生の家族全員の
名前を見つけました。習い事に来っていた少年でした。お父さん、お母さん、妹
さんと。小学生頃からずっと家に来ていました。その時中学2年生でした。
少年野球チームに所属し、いつかプロ野球の選手になることを夢見ていたと
てもシャイな少年でした。彼の夢、彼の将来は、たった十数秒で終って
しまいました。同級生達はもうみんなりっぱな社会人として活躍しています。
私は時々思うのです。彼は自分が亡くなったことに気づいていないのではな
いか？と。

今、毎日のように新聞やTVで自分の命や他人の命をも簡単に考えてい
る人達の多いことが報じられています。阪神淡路大震災で犠牲になった643
4人の方々の無念さを感じる時、今生きている私達は 命の大切さ 尊さ
を もっともっと知るべきではないでしょうか。生きていく上で苦しいこと
つらいこと いっぱいあるでしょう。私自身阪神淡路大震災で家を失い、又
命と同じ いえそれ以上、大切に大切にしていたものさえ、跡形もなくなっ
てしまい、PTSDと診断され死と向きあってきた年月がありました。心細く、
孤独で、まっ暗なトンネルの中、出口が見えず右往左往していた日々、将来へ

ゆめ きぼう み なか くる
 の夢や希望が見えない中、もがき苦しんでいました。

なか しんさい とお おお ひと であ い たいせつ
 そんな中、震災を通して多くの人との出会いがありました。生きることの大切

あらた し でき ひと ひとり い ふたり
 さを改めて知ることが出来ました。人は一人では生きてゆけない。でも二人

さんにん て おお おお ちから ともだち たいせつ
 三人と手をつなぎ よりそうことで大きな大きな力になります。友達を大切

ともだち あいて おも きもち ころ たいせつ
 にしましょう。お友達 相手を思いやる気持、心がとても大切です。

24年1月17日

市原 聰美



体験から学んだこと

● 子どもたちへ

震災の経験をして、「生きる」ことの意味を考え直しました。何となく過ごしてきた毎日、子供と戦いながらの1日1日 私は目の前の事に追われるばかりだったように思います。

不自由だった生活の中で「物」ではなく「心」を大切に感じた何ヶ月かでした。傷ついた心に人のやさしさやあたたかさがしみてきます。立ち上る元気を与えてくれたのも 人の「心」でした。あの時は大阪が別世界のようになっていて 私はとても寂しかったのを覚えています。「みんな気持ちは神戸に向いているよ」と言って欲しかったなあ。

人の数だけ被害は違うけれど「支えてくれている」と何とか頑張れるものなんです。「みんな一緒だよ」そんな心を忘れないで欲しいです。

2012年3月28日

さとっぴかあさん



● 子どもたちへ

地震じしんが起きおないようにはできませんが、地震じしんが起きたときに、けがおをしたり、死しんだりすることを防ふせぐことはできます。

大事なことは自分じぶんの命いのち、まわりまもの人の命いのちを守まもることです。

そのためには、家いえや建物たてものが、つぶれほきょうないように補強ほきょうすること、そして、家具かぐや冷れいぞう庫こなどが倒たおれてここないようにすることが必要ひつようです。もし自分じぶんの家いえに、倒たおれそうな家具かぐがあればすぐこていにでも固定こていしてください。

地震じしんになると、ガラスわが割とれたり、テレビとが飛とんできたりするので、ガラスにもフィルムをはりましよう。

それでも被害ひがいにあったときは、1人ひとりで頑張がんばるのではなく、多勢おおぜいの人に「助けたすてください」とたのみましよう。

地震じしんの時とき 家いえの下したじきになっひとたすた人たすを助けようにんとしましたが、3人にんではビクともしない柱はしらが 6人にんで持ち上もげると動あき、助け出うごすことができたたすました。 1人ひとりでも多おくの人ひとが協きょうりよく力ちからするこおとで、多おくの人ひとの命いのちが助たすかりました。

そのあと断水だんすいが続つづいたりしましたが、小學生しょうがくせいが水汲みずくみを手伝てつだってくれたりして、お年寄としよりは助たすかりました。自分達じぶんたちのできる範はん圍いで、みんなが力ちからを合あわせていけば、何なにが起おこっても、乗のりこおもえられると思おもいます。

平成24年1月18日

米谷 友宏

体験から学んだこと

● 子どもたちへ

はんしん あわじだいしんさい お とうじ かあ かぞく せいかつ
阪神・淡路大震災が起きたことで、当時のお母さんと、その家族みんなの生活
は、突然変わってしまいました。まず、当時のお母さんの経験を少し書いてみ
ます。

とうじす いっこだ いえ はんかい かべ はい やねがわら くず
当時住んでいた一戸建ての家は半壊でした。壁にひびが入り、屋根瓦が崩れ
あまも ご しゅうり なん いま おな いえ
て雨漏りもしていました。(その後、修理して何とか今も同じ家に住んでいます
が)

なが あいだへいてん しょくりょう の もの
スーパーマーケットが長い間閉店したままだったので、食料や飲み物も
か
買えなかった。

すいどう と ふろ はい かお あら
水道とガスも止まったままだったので、お風呂にも入れない。顔も洗えない。
りょうり なが みず で せんたく
料理もできない。トイレを流す水も出ない。洗濯もできなかった。

でんわ つう ゆうびん なが あいだ し
また、電話もしばらく通じなかったし、郵便ポストも長い間フタが閉まった
てがみ だ
ままで手紙を出すこともできなかった。

しゅうしゅうしゃ なが あいだ こ まち やまづ いえ
ゴミ収集車も長い間来なくて街にはゴミが山積みだった。家のまわりは、
こわ いえ はへん さんらん すな
壊れた家の破片などが散乱し、砂ぼこりだらけだった。

あいだ の みず ちか ちゅうがっこう きゅうすいしゃ く
しばらくの間は、飲み水を近くの中学校に給水車が来るときにもらいに
い
行っていました。

ちゅうがっこう うんどうじょう ひと れつ つく きゅうすいしゃ く ま
中学校の運動場でたくさんの人が列を作って給水車が来るのを待って
いました。しかし、やっと給水車が到着して水が配られ始めてからも自分の
きゅうすいしゃ どうちゃく みず くば はじ じぶん
番が来るのをずっと待っていたら、自分の番がまわってくる前に給水車の水
ばん く ま じぶん ばん まえ きゅうすいしゃ みず
がなくなってしまい、まだたくさんの人が水を待っているのに給水車が帰っ
ひと みず ま きゅうすいしゃ かえ
てしまい、そのまま家に帰るしかなかったこともありました。

とうじ みず くば ばしょ どうろ
当時は水を配らないといけない場所がたくさんありすぎたし、道路があちこ

ちで壊れたままだったため、車くるまが通れる道路どうろでは渋滞じゅうたいがおきていて、給水車きゅうすいしゃが次にいつ来るのか分からなかったのです。

震災前しんさいまえ、お母さんかあは電車でんしゃで1時間半かけて仕事じごとに行っていましたいましたが、震災で家の周りいえまわのすべての電車でんしゃ・バスうごが動かないので職場しょくばに行くことができなかった。仕事以外しごといがいでも、長い間ながあいだどこにも出かけることができなかったし、余震よしんが怖くて出かける元気げんきも出ませんでした。

ただ、お母さんかあの家族かぞくは、だれもケガをしなかったということだけは幸運こううんだったと思います。でも、お母さんかあの知っている人しひとの中には、家いえが全壊ぜんかいしたり、全焼ぜんしょうした人ひともいたし、亡なくなった人ひともいます。

あなたに一番いちばん伝えたいことは、こういうことです。

あなたが、今いま、元気げんきに生きているということ、便利べんりな生活せいかつができていること、お父さんとうとお母さんかあがいっしょにいること、このような生活せいかつは当たり前あまのことではなく、実はとても幸じつせなことだということ。

そして、自分じぶんの命いのちも、他の人ほかひとの命いのちも、みんな大切たいせつだということ。

この二つふたのことを、あなたにどうしても分わかってほしいと思おもいます。

2012年1月11日

※震災当時、神戸市長田区上池田 在住
(震災で全焼した地区の近隣地)

● 子どもたちへ

いま ねんまえ お おも しんさい お じぶん
今から17年前に、まさか起こると思っていなかった震災が起きました。自分の
い あいだ おお さいがい しん
生きている間に、こんな大きな災害がおきるとは、しばらくたっても信じられ
ませんでした。その時にお父さんの会社が倒壊してしまい、途方にくれて毎日
す げんざい へいわ せいかつ
を過ごしていました。現在の平和な生活があるのは、あきらめずに それでも
まえ む ささ あ はたら おも いちじ ぜつぼう
前を向いて、みんなで支え合って働いてきたからだと思います。一時、絶望し
とき の こ かぞく ひとたち そんざい おお おも
かけた時を乗り越えられたのは、家族やまわりの人達の存在が大きかったと思
ひとり こと
います。1人では、とてもりきれなかった事でしょう。

いま せいかつ なか おも おも
今の生活の中で“しんどい、おもしろくない”と思うこともあると思うけど、
ふつう へいぼん せいかつ ふつう こと
この普通の平凡な生活が、普通ではない、とてもしあわせな事で、それができ
ひと こと ところ おも おも まいにち
なかった人がたくさんいた事を心に思ってもらえたらと思います。毎日
ぶ じ けんこう かんしゃ こと しんさい おし こと
無事に健康ですごせることに感謝する事が、震災で教えてくれた事です。
また じぶん いま こと みち ひら
又、あきらめないで、自分の今すべき事をコツコツしていたら道は開けてくる
おも
と思います。

じしん おそろ こと こと
地震はとても恐しい事だったけれど、あたりまえの事がどれだけしあわせな
こと よう おも
事か しらせてくれた様に思います。

わす ひびす くだ
これを忘れずに日々過ごして行って下さい。

24年1月9日

山田 みつえ

● 子どもたちへ

あの、道ともいえぬ道を、寒い空の下 歩いていたら、ある母子に目が止まりました。

小さな子供がお母さんに「おしっこがしたい」、その時お母さんはオロオロ。

トイレもない、物不足でティッシュも持っていない様子。

たまたま ブレザーに入ったままの のこり少ないポケットティッシュを、私はそのお母さんに「どうぞ、使って下さい」と差し出しました。

お母さんは 涙をポロポロ流し、「ありがとうございます」と なんども頭を下げ 小さい子供と川辺へおりていきました。

つかいさしの ちっぽけなポケットティッシュひとつでさえ、なんと大きな思いやりのひとつなのだろうと、私は思いました。

そしてまた私も、いろんな人から小さな思いやりをたくさんいただき、不安でつらい日々を乗り越えることができたんだと思います。

どんな小さなことでも、どんなささいなことでも、ムダだと思わずに 人にやさしくできる強さをもっていてほしい。

あなたの小さな手のひらには、そんな強さが宿っているはずだから。

感謝の気持ち

子どもたちへ

わたし いま かいな
私は、今までに2回泣いたことがあります。 ねんまえ ほんしんだいしんさい とき
18年前の阪神大震災の時、
じしん
その地震のすごさもすさまじかったのですが、よしん つづ なか でんき
その余震の続く中、電気・ガス・
すいどう
水道といったライフラインのない生活を余儀なくされました。

まっくら よぞら つき こうこう て ひるま まっくら こくえん あ ながた かさい
真暗な夜空に月が煌々と照り、昼間は真黒な黒煙を上げていた長田の火災は、
まっか ふと ひばしら よぞら おお つ いえいえ あ
真赤な太い火柱となって 夜空を覆い尽くしていました。家々からは明かりが
き おんがく じんこうてき おと うしな へや でんとう すべ
消え、テレビ・音楽といった人工的な音も失われました。部屋の電灯や全て
でんかせいひん すいどう じゃぐち いみ おきしつ けいたい のこ
の電化製品・水道の蛇口はその意味をなさず、ただただ無機質な形態を残して
いるだけでした。

じしん かめ ごご じ わたし へや ひとり い とき
地震から5日目の午後1時、私が部屋に一人で居た時、どこからともなく
うた き
ユーミンの歌が聞こえてきました。たった5日間でしたが、ぶんめいてき せいかつ おく
文明的な生活を送
っていなかったわたし なに お き
私は、何が起こったのか、どこから聞こえてくるのかわからず、
まわ み
回りを見わたしました。それは、テレビからでした。

“それはそれは空を越えて やがてやがて 迎えに来る”

じしんご ていでん とき
地震後の停電の時 テレビのスイッチが ONになっていたまななのでしょう。
どうじ れんぞく しょうせつ しゅだいか はる なが
当時NHKの連続テレビ小説の主題歌であったユーミンの「春よこい」が流れ
てきたのです。

はる とお はる わたし い
“春よ遠き春よ 私は ここに居ます

ゆめ きみ まなざ かた だ
夢を くれし君の 眼差しが肩を抱く”

でんき とお しゅんかん
電気が通った瞬間でした。

わたし おね あつ き おえつ ひとり な
なぜか私は 胸が熱くなり 気がつけば、嗚咽するほど、一人で泣いていま
した。

うれ
嬉しかったのです。生かされていることが。

うれ
嬉しかったのです。灯りがともり、暖房がついて、ご飯が炊けて、洗濯のでき
まえ せいかつ
るあたり前の生活が。そしてまたこの世界に再び戻れたことが。

たし
確かにあの時 春は遠かったけれど、生き残った私たちは、あなた方、子供
かな ぜつぼう の こ ゆめ きぼう ゆうき
たちから、悲しみも絶望も乗り越えられる 夢と希望と勇気をいただきました。
あなたたちがいたから、頑張れたのです。生きよう と思えたのです。ありが
とう。

わたし おや おとな ひとり にんげん なに おし
そして私は親として、大人として、一人の人間として 何をすべきか、教え
ていただきました。

ともに いま たいせつ い
ともに 今を 大切に生きていきましょう。

平成24年1月9日

濱崎 礼子

感謝の気持ち

● 子どもたちへ

まだ小さかった我が子が 小学1年生として通学しています。

どうやって震災の事を伝えていこうかと親として迷う日々の中の東日本大震災。上手に伝えられるかわかりませんが、今この時に思う事を書こうと思います。

17年前の1月17日、神戸・淡路に起きた大震災。大きな地震、火事は多くの物やたくさんの人々を奪っていきました。毎日、当たり前前に過ぎていった日常があつという間に無くなってしまいました。

目の前に広がるのは、焼け野原。視線の高さには、がれきすら無く、残っているのは焼け残ったものという現状。日々生活していかなければならない中で何もないという状況をどう思うでしょう。

何げなく過ごしている毎日、明日が同じようになるとは限らないのです。

大変な中であつて、人々の心にともった灯り。それは思いやり、労る心。皆、助け合い、励まし合つて 前を向いて生きてきました。

人は皆 1人では生きていけません。

どうか日々の生活に感謝して、人の心を思いやれる大人になってください。

人と人とのつながりを大事に、どんな辛い事にも負けず、心豊かに過ごしていきましょう。

未来が明るい事を信じてください。

2012年1月12日

葉月 桜

● 子どもたちへ

あなたが物心ついた頃から 毎年 6つの家族が集まってキャンプをしていますね。親が忙しければ子どもだけ、時には 子どもは来なくて母親だけなんて年もありました。なぜ こんなに仲が良いのか不思議でしょう。あなたが産まれる前に神戸に大きな地震が来しました。地震が来る前 公園では 毎日たくさんの親子が遊んでいました。6つの家族は 顔見知り程度の仲でした。大きな地震が来て あっという間に いろいろなものを失いました。日々、食べる事だけで精一杯の中、何となく 子どもを連れて公園のすみっこに集まり始めたのが、この6家族なのです。

おしめをもらったり、おリンゴをわけたり、先が見えない不安の中、疲れ切っていたけれど、顔を見るだけで、ほっとしていたのです。

神戸がだんだん元気になって、私たちも元気になり、一緒にキャンプに行こうと計画するようになりました。

あれから17年が過ぎ、いろいろなことが、各家庭に起きました。楽しいことも 悲しいことも いろんなことがありました。でも常に私達は前に前に進んで来ました。自分たちが、頑張ってきたのだと思っていましたが、地震の後、神戸が元気になれたのも、私たちが元気になり、かけがえのない仲間を得られたのも、実は、名前もわからない日本中の人たちが支援して下さったからなのです。そのことは、決して一生忘れては、ならないことなのです。

子どもたちへのエール

子どもたちへ

いま 神戸で、^{えがお} なたたちの笑顔がみれるのは、、、、

いま、お布団でぐっすり ^{ねむ} 眠れること、ごはんがおなかいっぱい ^た 食べられるこ

と、、、 ^{かぞく} 家族に「おはよう」「おかえり」や ^{はなし} お話ができること、、、

^{ともだち} お友達と ^{べんきょう} 勉強したり、あそんだりできること、、、 ^{まいにち} 毎日、^ほ 1歩ずつ

^{すす} 進んでいけることは、^{けっ} 決して ^{ひとり} あなた一人で、できることではないんです。

^{だれ} 誰かがあなたに “ちから” をくれているから

そして あなたも、^{だれ} 誰かに “ちから” をあげているんだよ

^{おも} 思いやり、やさしさを ^{ひと} 人にあげることは ^{たいせつ} 大切

きっと、あなたには ^{わたし} できるはずだと、^{おも} 私は、思います。

平成23年12月8日

大川 智美

● 子どもたちへ

しぜん とも いのち
～自然と共にある命～

いまわたし めぐ せいかつかんきょう なか う そだ す こと
○今私たちがとても恵まれた生活環境の中で生まれ育ち、過ごしている事に
かんしゃ
感謝したことがありますか？

う とき さんねん とく なに かん
生まれた時から、すでにあるものへのありがたさは、残念ながら特に何も感
じないかもしれません。失なって初めて気づく、、、私 もそうでした

はんしん あわじだいしんさい
○H17. 1. 17 阪神・淡路大震災がおきました

じしん いっしゆん たてもん いえ どうろ たいせつ ひとびと いのち おも で
○地震は一瞬にして建物、家、道路をこわし、大切な人々の命、思い出を
いま せいかつかんきょう すいどう でんき でんわ こうつう
うばい、今まであった生活環境「水道」「電気」「ガス」「電話」「交通」
などつか そうぞう
等使えなくしました。（想像できますか？）

ときはじめ しぜん ちから こわ おも どうじ しぜん とも
○その時初めて“自然の力の恐さ”を思いしらされたと同時に“自然と共に
いのち じっかん
ある命”なんだとも実感しました。

ひと ちきゅう なか そんざい ちきゅう ひ びうご へんか こと わす
○人は地球の中で存在し、その地球も日々動き変化している事を忘れないよう
にしています（又いつかおきる大地震を）

かな げんじつ ふっこう べんり つづ ほんとう
○悲しい現実から復興し、さらに便利になり続けるのは本当にありがたいけれ
ど、その反面 はんめん しぜん はな にんげん も ほんらい のうりょく うしな こと
を考えると、とても残念です かんが さんねん

こ しぜん たの こわ たくさんたいけん いま べんり
○子どもたちには、自然の楽しさや恐さを沢山体験し、今ある便利なものを
りよう ほか べつ
利用するだけでなく、もしこれがなければ、どうなるだろう～他に別のもの
ができないか…等、自分の頭と体をたくさん使ってほしいと思います。 など じぶん あたま からだ つか おも

長田 瞳

東日本大震災派遣職員から子どもたちへのメッセージ

東日本大震災の被災地を支援するために派遣された神戸市職員から、現地で感じたことを、子どもたちへのメッセージとしていただきました。その中から3通をご紹介します。

● 子どもたちへ

私は津波で大きな被害を受けた宮城県名取市へ復興のお手伝いをするために、現地に赴きました。

名取市での仕事は、津波で何もかも無くなった町を元通りに、震災以前よりも立派な町にするために、どういう計画を立てていけばいいのかを支援する仕事でした。

どんな町にすればいいのか、どうすれば安心して暮らして仕事ができるのか、その答えを求めて、津波の被害を受けた方々のお話を伺いました。名取市役所の方々と一緒に仮設住宅などを巡って、ひざを交えながら、いろいろと意見交換をしました。

そこで伺ったお話の中で、印象に残っているものを紹介します。

名取市では、他の町に比べて非常に早い速度でガレキを片付けていました。

といいますのも、津波によって潰れた家のどこかに、自分たちの家族の、そして、どなたかのご遺体があるかもしれませぬ。名取市は三陸海岸と違って、広い平野と田畑が海岸沿いに続いています。ですので、津波が海へと引いていっても、すべてを海が持っていくことはないそうです。亡くなった方が、隣の家や近くの建物に運ばれていくことも多かったようです。

そうしたことを皆さんご存知でしたので、一日でも早く、亡くなった方をちゃんと吊りたい、どこかでまだ見つからない家族のご遺体があるかもしれない、そんな思いだったそうです。

まだ、建物とすれば、住めるかもしれない。だけど、同じ町内で見つからない人のことを想うと、一日も早く自分の家は解体してほしい、解体すれば、ひょっとすると誰かのご遺体が見つかるかもしれない。そんな思いから自宅の解体を申し出た人が何人もいたそうです。

私も直接そうした方のお話を伺いました。そして、建物を壊してみると、家族以外のどなたかのご遺体が見つかることもありました。

津波の被害で誰もが苦しい生活をしているなかで、他に困っている人がいるのなら、自分で出来ることを少しでもしよう。自分がちょっと不便になったからといっても、他の誰かが救われるのならば頑張ろう。そんな思いの人に多く出会いました。

皆さんは、いろいろと困ったことと出会うかもしれませんが、その時、まわりの人に出来ることを考えてみてください。少し自分が困るかもしれませんが、その出来ることによって救われる人もいることを覚えておいてください。

平成24年1月5日

橘 孝夫

● 子どもたちへ

わたしは、阪神・淡路大震災の時に、JR新長田駅北側にある神戸市立長田工業高校に開設されていた避難所の運営をしていた経験を買われて、第2次東日本大震災災害支援派遣職員として、3月20日～3月26日まで、避難所となっている仙台市若林区若林小学校の体育館に行ってきました。

神戸を出発する前に、今仙台では何が必要かをわたしの体験から考えたところ、ベビー用品（普通の粉ミルクは救済物資にはあるがフォローアップミルクとおしり拭きが不足していると思った）や子供たちの遊び道具（長時間室内にいたので、トランプ・あやとり・お絵かき帳・色紙）甘いお菓子などがよいと思い、職場の同僚の方の協力のもと、スーツケースにパンパンになるほど詰め込んで仙台に向かいました。

仙台に到着後まず驚いたのは、体育館に住民の方が避難をしているが色々色々なところが、災害避難所として機能していないことでした。

そこで、これまで避難所を運営していただいていた地域の自治会長・各町内会長・民生委員さん達に集ってもらい、阪神・淡路大震災の時の運営のノウハウを伝え、改善出来ることはしていただけるようお願いしました。

よそ者がいきなりやって来ていきなり指導を行うと反発があるかと思いましたが、意外にも皆さんに「神戸市さんの経験を生かした意見をお願いします」と熱心に聞いてもらい、すぐに実行してもらえました。

東北地方という土地柄もあるでしょうが、皆さんとても温和でおとなしいのでちょっとビックリしました。

普通、あれほど大きな地震と津波のあとであり、毎日何回も余震がくるなか冷静に過ごしている子供たちを見て、またもやビックリしました。

人生経験の少ない子供達にとっては、かなりの精神的なダメージを受けている

のにもかかわらず、狭い体育館の中に何世帯の人と共同生活しているから、他の人に迷惑をかけてはいけないと我慢しているのが、よくわかりました。

わたしの見た限り、子供らしい笑顔はなく暗い顔ばかりでした。

神戸から持参した遊び道具などを通じて子供たちと仲良くなり、色々な話をしました。

今、全国でさまざまな年齢の人が自分の出来る範囲で君たちを支援しようと頑張っている事を伝え（今流行の化粧をした若い女の子が寒空の中、募金活動していることなど）

君たちに今出来ることは何かな？と聞くと「大人の人のお手伝い」と返答してくれる子供がたくさんいました。

わたしは、「こんな時こそみんなで力を合わせ、助け合う気持ちを持とう」と子供たちに言いました。

それ以降、いろんなお手伝いをたくさんしてくれ、子供たちも自分がみんなの役に立っていると実感したのか、充実した笑顔が少しずつ戻ってきました。

まだまだ、東北地方は震災復興の最中ですが、子供たちが将来大きくなった時に、このときの気持ちを忘れずに次世代に語りついでいって欲しいと思います。

平成23年12月21日

清水 利也

● 子どもたちへ

「人を思う気持ち」

2011年3月11日におこった、東日本大震災。

私たちは、「何かできる事はないか」「何か役に立てる事はないか」と、テレビに映し出される映像を見ながら、いても立ってもいられない気持ちになりました。

それは、全国いや全世界の多くの人がそうだと思います。

けれど、阪神淡路大震災を経験した私たちは、一層その思いは強いのかも知れません。

当時多くの人に支えられ、励まされてきたことは忘れられません。

特に、今でも鮮明に思い出されるのは、震災のあった翌日の朝、京都からバイクで夜中中走って、避難所となった当時私が勤めていた学校におにぎりを届けてくださったことです。

学校には、何千人という人が避難してきており、そのおにぎりの数ではとても足りませんでした。でも、その人がどんな思いでこのおにぎりを作ったのかまで運んでくださったのかそれを思うだけで、胸がいっぱいになって、とても嬉しかったのを覚えています。多くの人が着の身着のまま学校にやってきましたから、私は何がここでできるのか、何が役に立てるのか、苦しい気持ちになっていました。ですから、そのおにぎりだけでもここに来ている人に配ることができると思いました。

あの時、多くの人々が、自分が被災していようがいまいが相手が知っている人であろうがなかろうが、そんなことは関係なく、ただ目の前にいる人のことを思って行動していました。しないではいられなかったのです。

今回の震災で、1週間仙台の荒浜小学校に支援に行く機会をいただきま

した。自分の体験が何かの役に立つことがあればと思って仙台に行かせていた
だきましたが、津波の後の荒浜の町を目にしたり、当時の様子を聞いたりした
とき、私は言葉がみつかりませんでした。自分の時はこうだったと自分の被災
体験を語るのも何か違う気がして、ただただ聞いていることしかできませんで
した。何ができたか自分でも分かりません。だが、荒浜の教職員の方のご自身
の被災や当時の懸命の働きを内に秘めた、暖かですぐでいて真の強さを感じ、
お役にたったことより、私が学んだこと教えて頂いたことの方が多かった1
週間でした。

この2つの震災の経験で感じたこと、出会った人、思いは絶対に忘れずに伝
えて行きたい、と思っています。舞子高校の環境防災科の生徒が東北でボラ
ンティアをしていた番組を見ました。そこで先生が「笑顔にしてあげようとか、
力になろうとか思わないこと、それは結果であって受け取る人が思うこと、
私たちはただ目の前の仕事をする、仕事をたださせていただくだけ」と話され
ていました。


震災では、失ったものがたくさんありました。でも、忘れられないことの中
に、あの時の、人の思いやる気持ち、何かしないではいけない気持ちがあり
ます。今回の、東日本大震災でもたくさんの「思いやり」の気持ちが溢れまし
た。この思いは、どの人の心の中にも必ずあるのだと思います。もちろん、
あなたにも。

2012年1月10日

中西 佐智子

阪神淡路大震災 百十七日 (一九九五)


百十七日が来れば
嫌でも当時に
呼び戻されます
この日より被災者
を救われよう
感情を抱きつても
心を
助け
あい




手をつなぎ
心もつながり
支えあい

苦しみ悲しみ乗り越えて
一歩一歩また一歩、小さな前進に
夢を託し十七年を
生きて来た
街並み、公園施設等々々美しく立派に
なりましたが
心の傷は簡単に消える事は
ありません

昨年は東日本大震災に
加えて
台風15号と
相次ぐ大雪被害に
みまわれ被災地は
苦しんでいます
(十七年前の自身遭った
重なり悲しみと不安に
事あるまで)




被災時時は自分が一番不幸でトクに
実を著し願ふに津波
原発の事もなく不幸中の
幸だったを思い直すべき
被災地の方の言葉に震災を
忘れたらと礼を事何の
不後者も三番悔しとだより




阪神淡路大震災も

東日本の震災にたくも忘れられ
なく夢を自ら先導として強い
絆を結ぶあ、たくましく
前進して行かなければ
ならないと思えます




東北の塩地ひまわり。
花が咲き、みなを喜ばせ
勇気付けたとエースがあり
神戸もひまわりも全国にお礼を
ハイとお返した記憶が
甦ってきました




上を向くひまわりが必ず明るく
元気で頑張る生きるとが
犠牲とされた多くの方への恩返し
がることとしよう 合掌

自然は優しく
美しいけれど




厳しく怖い
震災はいつか超え
念がない...だからと言って
心配あつては日々の生活を楽しく
あまさん



当前に生活が出来ることに感謝して
過すための日々

震災も忘れ
忘れたらあらい

風化させないとか
大きな負いです



メッセージを^よ読んであなたが^{かん}感じたことを^か書いてみてください。

子どもたちからの感想文

平成22年度中に寄せられたメッセージを読んで、友が丘中学校・
福田中学校より、たくさんの感想文をいただきました。その中からいく
つかの感想文をご紹介します。

友が丘中学校 土手 将矢

ぼくは、震災の時は、もちろん生まれていなかったのですが、どれほどのきず跡を
残したかは、ぼくには想像しきれません。でも、このお話を読んで、ほとんどの
メッセージから、人は一人では生きてはいけません。人は助け合うからこそ生きて
いけるんだ、と思いました。近所の人と仲良くするというような小さなこと
でも、震災では、一番大切なものを救うんだと思いました。自分はもちろん大事
だけど、周りの人々みんなも、また大切なものだとわかりました。

友が丘中学校 片山 菜歩

たくさんの方が、メッセージを書いて下さっているので、すごくありがたい
と思いました。このメッセージを聴いて見て「人の優しさや温かさ」は本当に
すごいと思いました。どの方も、まわりの方々と助け合ったという内容だっ
たので、地震当時、いろんな人の気持ちは1つだったんだなと感じました。
神戸の人だけではなくて、他県の方など、たくさんの方の協力があったから
こそ、私たちはこうして普通の生活が出来ているんだととても思いました。な
ので、日ごろから近所の人とあいさつをするなど、少しでも交流を深めたい
と思います。今は東北の方が大変なことになっているので、ぼきんなど私に出
来ることを少しでもできたらと思います。

友が丘中学校 高橋 明希

震災の当時は、ガレキやいろんなものが壊れていて、復こうするか心配だった。ただ、今の神戸の町は震災のキズ跡があまり見られなくなり、やっぱり人の助け合う、踏まれても立ち上がる力はすごいなと思いました。でも、逆に考えてみれば、時の流れは早く、悲しい気持ちも辛い気持ちも闇へ放り散った感じがします。

私たちが何げなく歩いている神戸の町で、どれだけの人が亡くなったか、どれだけ辛い思いをしたか、と考えると、1日1日を大切に生きていたいと思いました。今の私たちがいるのは当時の人々の助け合い、絆の深さのおかげだと思います。

福田中学校 内村 優花

私は「子どもたちへ」を読んで、改めて人と人は支え合っているんだと思いました。この冊子を一枚一枚見ていく度、書いてくれたメッセージは貴重なものだと実感しました。思い出だけでも辛い過去を私たちに伝えてくれました。それを今後私たちが忘れずに一つ後の世代に伝えることが私たちにできることではないのかなと思います。

そして3月11日にあった大震災もふまえてもっと震災に備えての心構え、対応力、地域とのふれあい、一つ一つの事に気を付けて見直したいです。いつ来るかも分からない自然災害を甘く見てはいけない、たった一つしかない命を大切にそんな事をまた一つ学びました。

福田中学校 廣瀬 祥一郎

ぼくが今、死ななければならぬ運命だとしたら・・・と、ふと考えてしまいました。震災では老若男女問わず多くの命が奪われました。ぼくと同じ年代の子供たちも多く犠牲になりました。ぼくは今年中三になります。高校、大学、就職・・・不安もあるがこれからの人生の選択にワクワクする気持ちがあがってきます。震災で亡くなった彼らも夢と希望でいっぱいだったんだろう・・・と思わずにいられませんでした。

そう思っていると、ただなんとなく毎日を過ごしてきた自分がはずかしく思えてきました。これから死にたいくらいつらいことにぶち当たるかもしれません。そんな時今の気持ちを思い出そうと思う。

福田中学校 山本 冬花

震災がおきたとき、私は生まれていませんでした。今の神戸は、私にとって住みやすく震災がおこった場所にはとても見えません。

でも、このような文を読むと、すごく心が痛みます。助けたくても、助けることができなかったり、声が聞こえるのに自分は何もすることができなかったりしていたことがすごく伝わってきます。震災はそんな人間の無力さを分からさせるできごとだった気がします。でも、そんな人間も集まれば助け合え、また生きていくことができる。そんなことを教えてくれるものも震災のすごさだと思いました。

じしんにもまけない つよ いこころをもっ て なく
つ いたこうべ を もと のすがたにもどそ う ささ

な ったかたがたの ぶん もまい にちをたいせつに いきていこうきず
え あうこころと あしたへのきぼう

う をむね に ひびきわたれば ぼくたちのうた う

ま れかわるこうべのまちに とどけたい わたしたちのうた しあ

わせはこべるよう に

一、地震にも 負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも
 毎日を 大切に 生きてゆこう
 傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
 支え合う心と 明日への 希望を胸に
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように



二、地震にも 負けない 強い絆をつくり 亡くなった方々のぶんも
 毎日を 大切に 生きてゆこう
 傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
 やさしい春の光のような 未来を夢み
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように



～ さいごに ～

このメッセージは、阪神・淡路大震災を知らない・よく覚えていない子どもたちに、命の尊さや震災の教訓を語り継ぐために寄せられたものの一部です。

このメッセージが子どもたちの心に届きますよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

16年度から23年度の実績

年度	メッセージ募集期間	応募数(通)	メッセージ運動展	メッセージ集
16年度	平成16年4月 ～平成17年1月	557	平成17年3月17日～30日	2005
17年度	平成17年2月 ～平成18年1月	256	平成18年3月17日～30日	2006
18年度	平成18年2月 ～平成19年1月	222	平成19年3月17日～26日	2007
19年度	平成19年2月 ～平成20年1月	173	平成20年3月18日～27日	2008
20年度	平成20年2月 ～平成21年1月	153	平成21年3月17日～26日	2009
21年度	平成21年2月 ～平成22年1月	200	平成22年1月17日～28日 3月17日～26日	2010
22年度	平成22年2月 ～平成23年1月	119	平成23年1月12日～23日 3月23日～30日	2011
23年度	平成23年2月 ～平成24年1月	167	平成24年1月13日～22日 3月26日～30日	2012

▶ 24年度の実績

前年度同様に、メッセージを募集しています。

詳細は、神戸市のホームページをご覧ください。下記までお問い合わせください。

ホームページ検索

子どもたちへのメッセージ運動

検索

お問い合わせ先：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 322-5234

《子どもたちへのメッセージ運動の活動にご協力いただいた方々》(五十音順、敬称略)

絵手紙「栄」フレンズ、絵手紙わかば、クリスタル・ベル、神戸市PTA協議会、神戸市立幼稚園PTA連合会、神戸市立小学校PTA連合会、神戸市立中学校PTA連合会、神戸市立高等学校PTA連合会、神戸市立盲・養護学校PTA連合会、神戸学院大学地域研究センター、神戸市混声合唱団、神戸市老人クラブ連合会、神戸デザイナー学院、神戸ヤングクリエイティブクラブ、サークル紙ふうせん、スタジオ・チーズ、大日通周辺地区まちづくりを考える会、日本赤十字社兵庫県支部及びび声の図書奉仕団、NPO法人ふたば

《これまで協力校となっていたいただいた学校》

有野東小学校、池田小学校、板宿小学校、井吹西小学校、会下山小学校、櫻野台小学校、春日野小学校、高津橋小学校、小寺小学校、塩屋小学校、玉津第一小学校、長田南小学校、稗田小学校、兵庫大開小学校、本庄小学校、湊川多聞小学校、本山第二小学校、若宮小学校、井吹台中学校、楠中学校、鷹匠中学校、鷹取中学校、飛松中学校、友が丘中学校、長坂中学校、長峰中学校、蒼合中学校、福田中学校、本庄中学校、港島中学校、本山中学校、丸山中学校、兵庫県立舞子高等学校

＜参考資料＞神戸市「阪神・淡路大震災 被災状況及び復興への取り組み状況」
(平成 24 年 1 月 1 日現在)より抜粋

神戸市の被災状況等

震災は、多くの命を奪うとともに、都市基盤や建築物に甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。また、復旧の長期化に伴い、産業、都市機能、生活などに様々な影響を及ぼしている。

<p>(1) 市民生活への被害</p> <p>① 人的被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡者 4, 571 人 (H17. 12. 22 変更) ・不明 2 人 ・負傷者 14, 678 人 (H12. 1. 11) ・高齢者 (60 歳以上) が死亡者の約 59%* ・家屋倒壊による死者多数 (窒息・圧死が全体の約 70%*) <p>※ 高齢者、家屋倒壊による死者の割合は、平成 17 年 12 月 22 日現在 (死者 4,571 人) での割合 (ただし、窒息・圧死の割合は直接死 3,895 人での割合)</p> <p>② 避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時：箇所数 599 箇所 (H7. 1. 26) ・避難人数 236,899 人 (H7. 1. 24) ・避難所就寝者数 222,127 人 (H7. 1. 18) <p>③ 公共施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、病院等の重要公共施設の破損、倒壊 <p>④ 学校教育・社会教育・文化施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校園の約 85%が被災 ・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊 ・酒蔵、異人館等の破損、倒壊 <p>(2) 都市機能の被害</p> <p>① 建築物、構造物の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊 67,421 棟、半壊 55,145 棟 (H7. 12. 22 現在) <p>② 火災による焼損 (確定値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全焼 6,965 棟、半焼 80 棟、部分焼 270 棟、ぼや 71 棟 ・延べ焼損面積 819,108 m² ・火災件数 175 件 (震災とほぼ同時に 54 件発生) <p>③ 交通ネットワークの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神高速道路 3 号神戸線、同 5 号湾岸線等の倒壊 ・陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路不通 ・鉄道の寸断 ・海上都市へのアクセスの寸断 <p>④ 港湾施設等の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナバース、岸壁等がほとんど全て使用不能 ・港湾幹線道路の寸断 <p>⑤ 埋立地の液状化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部 2～4 工区、ポートアイランド等で液状化 <p>⑥ ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電 気 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 7 日間) ・電 話 約 25%停止 (応急復旧に要した期間 15 日間) ・水 道 市内ほぼ全域停止 (応急復旧に要した期間 91 日間) ・工業用水道 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 84 日間) ・ガ ス 約 80%停止 (応急復旧に要した期間 85 日間) ・下水道 管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下 (2/7 箇所) 及び機能停止 (1/7 箇所) (応急復旧に要した期間 135 日間) ・クリーンセンター 全クリーンセンターの運転停止 (応急復旧に要した期間 35 日間) 	<p>⑦ 公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/3 の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害 <p>⑧ 河川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級河川 117 箇所破損 ・準用・普通河川 27 箇所破損 <p>⑨ 治山・砂防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急復旧を要する箇所 68 箇所 <p>⑩ 社会・産業面の資本ストック全体の損害額 (推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約 6 兆 9 千億円 <p>(3) 神戸産業の被害</p> <p>① 基幹事業所及び製造大手企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社等中枢建築物の倒壊 ・生産ラインの停止 <p>② 中小企業・地場産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケミカルシューズ 約 80%が全半壊または全半焼 ・清酒造 50%以上の企業が全半壊 <p>③ 市場・商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧市街地の商店街の約 1/3、市場の約半数が甚大な被害 <p>④ 観光・コンベンション施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害 <p>⑤ 農漁業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害 <p>(4) その他</p> <p>上記の直接的被害にとどまらず、避難所生活に伴う精神的疲労や子ども・高齢者・障害者等への心理的影響、学校等教育機能の低下、ライフラインの復旧の遅れや交通渋滞などによる都市機能の低下、雇用の不安定化など、市民の生活に対して様々な面で、震災が影響を及ぼすこととなった。</p> <p>また、産業面においても、企業の市外への移転や被災による生産量の低下、港湾施設の被害に伴うコンテナ貨物の他港へのシフト、高速道路の寸断や復旧工事による交通容量の不足等により、神戸のみならず、日本経済へ深刻な影響を及ぼすこととなった。</p> <p>さらに、大量の災害廃棄物処理や、これに伴う環境への影響など、震災がもたらした被害は、広範囲で多方面にわたる深刻なものとなった。</p> <p>(5) 旧避難所等・仮設住宅・災害廃棄物処理について</p> <p>① 旧避難所</p> <p>避難所は平成 7 年 8 月 20 日で終了し、待機所を平成 9 年 3 月 31 日まで運営。</p> <p>② 仮設住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建設戸数 32,346 戸 (市内 29,178 戸、市外 3,168 戸) ○撤去状況 全敷地原状復旧済。 <p>③ 災害廃棄物処理 (平成 10 年 3 月末最終)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実績 解体済 61,392 棟 (100%)
---	---

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

「子どもたちへのメッセージ運動」の取り組みをご紹介します

子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐため、平成 16 年 4 月に運動を始め、平成 23 年度までに 1,847 通のメッセージが、寄せられました。

震災のときに生まれた子どもたちが大人になるまで、毎年、メッセージを募集し、伝えていく予定です。

2月～翌年1月
メッセージを募集



1月中旬～下旬
メッセージ運動展
(市民ギャラリーにて)



10月～翌年1月
子どもたちに届けます



発行：平成24年10月

発行者：神戸市・神戸市教育委員会

編集：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 078-322-5234

協力：神戸市教育委員会指導部人権教育課 電話 078-322-5807

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

広報印刷物登録平成24年度第176号A-1



みんなにやさしいまち、
みんながやさしいまち神戸



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。